

注記事項

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券・・・・・・・・償却原価法（定額法）

その他有価証券・・・・・・・・原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

番組制作費・・・・・・・・個別法に基づく低価法

印刷教材等・・・・・・・・先入先出法に基づく低価法

3. 固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産

定額法によっております。

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

また、特定の減価償却資産（放送大学学園会計基準第42）及び資産除去債務に係る特定の除去費用等の減価償却相当額については、抛出剰余金の控除項目である損益外減価償却累計額として表示しております。

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、償却年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

4. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

役員及び職員の賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

役員及び職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付債務については、簡便法を用いて計上しております。

(3) 学生数等減少準備引当金

放送大学学園に関する省令第3条(平成15年文部科学省令第39号)の規定に基づき、将来の学生数等の減少に備えて、計上しております。

5. 授業料収益の計上基準

期間進行基準を採用しております。

6. 業務実施コスト計算書における機会費用等の計上方法

(1) 引当外退職給付増加見積額は、自己都合退職金要支給額の当期増加額を計上しております。

(2) 国又は地方公共団体の財産の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用の計算は、近隣または類似の賃貸料等を参考に計算しております。

(3) 政府抛出等に係る機会費用の計算は、当期首残高 23,010,170,071 円と当期末残高 21,392,566,935 円を加えて2で除したものに一定の利率(決算日における10年もの国債の利回り 1.255%) を乗じて算定しております。

7. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

資金の期末残高の貸借対照表上の科目

現金及び預金	972,724,851 円
定期預金	<u>△</u> ー円
(差引) 資金残高	972,724,851 円

(その他の注記事項)

当学園では当会計年度より、学習センター等におけるアスベストの除去、PCB 廃棄物の処理及び建物賃貸借契約に基づく原状回復義務に係る債務について、資産除去債務を計上しております。

使用見込期間を取得から3～60年と見積り、資産除去債務の見積りにあたっての割引率は0.2～2.3%を採用しております。

当会計年度において資産除去債務に計上した金額は35,695,043円であり、当会計年度末における資産除去債務残高は、上記金額と時の経過による資産除去債務の調整額715,895円の合計36,410,938円となっております。

なお、除去費用の減価償却相当額については損益外減価償却累計額、時の経過による資産除去債務の調整額については損益外利息費用累計額として、抛出剰余金の控除項目に計上しておりますので、損益への影響はありません。

上記以外にも学習センター等不動産賃貸借契約に係る債務を有しておりますが、それらの債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、将来移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができないため、計上しておりません。